

**Cabinet des modes ou les modes nouvelles, no.1—24, 1786.**

Paris, Buisson, 1786. (文献番号8-1)

Hiler p.561 Colas 500 Lipperheide 4569

キャビネ・デ・モード、または 新しいモード 24分冊 1786年

1785年11月まで新しいモードを伝える情報誌としては、フランスでは1778年以来『ギャルリー・デ・モード』が史上を独占していたのだが、ル・ブラン・トッサ (Le Brun-Tossa) によって、別のモード誌の出版が始められる。それがこの『キャビネ・デ・モード』である。『ギャルリー』が一部につき35リーヴルであったのに対し、この『キャビネ』は、年間24分冊の定期講読料が、わずか21リーヴルであった。版型も『ギャルリー』のような大判ではなく、両手のひらにおさまる小型版 (in 8°) で、何部刷られたかは定かではないが、それまでのモード伝達を果たした『ギャルリー』や衣装人形にとって替わって、かなり売れゆきをみせたと思われる。発刊翌年には、パリ、フランスでの講読料が18リーヴル、イタリア、スペイン、英国、オランダ、ドイツ、ロシアなどでも21リーヴルで講読できるようになり、1786年の第1号には、「これまでのおそろしく高価だった衣装人形に拠らなくても、新しいパリモードを手頃な値段で伝えられる」という宣伝文が載せられている。

各号は16頁ほどの記事と、手彩色銅版画が3枚ずつからなっている。記事内容は、パリのモードの細かな説明、流行している記事名、色、また髪型に始まり、詩も載せられ、パリの催し物情報、社交界情報などもある。銅版画は、デレ (Desrais)、ピュガン (Pugin) などの下絵をデュアメル (Duhamel) が刻画したもので、男女の服飾ばかりではなく、新しい馬車や家具、食器、銀器、室内装飾、宝石のデザイン見本などもあり、それぞれに詳しい1頁分ほどの説明が付き、当時のパリのブルジョワ生活を知る上でも興味深い。

当図書館には、1786年分の24冊が揃っており、これは、大革命直前というモード史上の大きな移行期を知る上で、また、モード誌が急激に大衆化していく様を知る上でも、大変重要な資料になっている。

図は蚤色 (赤褐色) の4~6人乗り馬車 (キャレ・ラージ) 1789年19号。 (斎藤)

